

## 平成24年度 県小教研学習指導改善調査【結果分析】第4学年国語

### 1 調査結果の分析

#### (1) 資料選択について (①～⑦)

##### ア 資料を読み取る力・・・(①～④)

①の正答率は71.0%とやや低めで、読み取りの中では最も低い値を示した。取材メモの内容の2点を読み取り、それらを把握して言葉を選ばなければならないのに、一つ目のメモの記述のみに着目して「材料以外の物がまじっていないか」を選んで誤答となったケースが目立った。無答率も24.3%と国語の調査問題の中では群を抜いて高く、資料を読み取って内容を把握することに弱さが見られた。②③④の正答率はいずれも80%を超えており、高かった。メモと文章とを対応させて読み取ることはよくできていると考える。

##### イ 話題に沿って必要な事柄を選択する力・・・(⑤⑦)

⑤の正答率は52.4%と、国語の調査問題の中で最も低い数値を示した。使わなかったメモの選択はできていても、その理由を正しく書くことができなかつたため誤答となったケースが目立った。誤答の傾向は三つあった。一つ目は、「～から。」「～ので。」等、理由を示す文末になっていないものである。二つ目は、「機械のことが書かれているから。」のように、文末に「～から。」は使われていても、「(工場に機械がたくさんあることは)商品を作るときに気を付けることに関係ない」ということを記述できていないものである。三つ目は、「短いメモだから。」「あまり大事ではないから。」など、メモを使わなかった理由が話題とかけ離れているものである。全体として、「せんべい工場で作るときに気を付けていること」というテーマを意識しながら理由を考えて記述することに弱さが見られた。それに対して、⑦の正答率は82.2%と高かった。自分が選んだ内容に合ったメモを選択する力は付いてきていると考える。

##### ウ 資料を活用する力・・・(⑥)

⑥の正答率は74.9%であった。誤答の傾向は二つあった。一つ目は、「ローラーやエアシャワーを使う」「ほこりを落とす」のどちらか一方しか記述していないものである。二つ目は、アの「取材メモ」の中から付け足す内容を見付けることができずに、「安全や衛生に気を付けています」など、自分勝手な文を付け足したり、「おいしく食べられる期間をふくろに印刷しています」など、別の取材カードの内容を付け足したりするものである。また、無答率も6.8%あることから、【インタビュー】【取材メモ】【組み立て表】【紹介文】の四つの関連を理解し、それを活用する力がまだ十分ではないと考えられる。複数の資料や文章などを関連付け、多角的に読み取る活動を、国語の時間だけでなく他教科でも行っていく必要がある。

## (2) 記述問題について(⑧～⑩)

### ア 時間内に指定された文字数で文章を記述する力・・・(⑧)

正答率は 81.5%と高い。昨年度の正答率の 85.8%はやや下回ったものの、引き続いてのよい結果となった。⑦の資料選択ができていれば、指定された字数で記述することは、それほど難しくないと考えられる。メモと作文とを関連させる指導を続けていくことが大切である。一方で字数の足りなかった児童、全く書けなかった児童への対応を改善する必要がある。

### イ 段落を意識して記述する力・・・(⑨)

正答率は 65.3%であった。「はじめ」「なか1・なか2」「おわり」の四段落構成を意識して書くことができない児童が多い。それぞれの段落の書き出しの一字下げができていないため誤答となったケースが目立った。「はじめ」の段落で発表する内容をきちんととらえた記述をしている児童は、その後の段落構成もしっかりとしていた。また、「なか」の段落で「まず・次に」「一つ目・二つ目」など、順序を表す言葉を使う児童は、段落を意識して書く傾向が見られた。

### ウ 資料を活用して書く力・・・(⑩)

正答率は 55.7%と低い。誤答では、選択した⑦の資料を十分に活用せず、内容が不足している、選択したメモ以外のものも使って書いている、メモに書かれていない内容を勝手に書いている、問題文を理解できず、中山さんの紹介文をそのまま書いている、などが見られた。まず、「問題文をしっかりと読み、自分が選択したメモを使って、組み立て表の順序に対応させて書く」という構えが必要である。

## 2 今後、重点的に指導してほしい活動

### (1) 国語の学習で

- 段落意識をもちながら、説明的文章を読んだり書いたりすること。
- 読み取った段落の内容に小見出しを付けること。
- メモを取ったり、目的に応じてメモを取捨選択したりすること。
- メモや資料をもとに、「はじめ・なか・おわり」の構成を意識して文章を書くこと。

### (2) 他教科や総合的な学習の時間で

- 朝や帰りの会のスピーチなどを利用し、まとまりを意識して話すこと。
- 取材・見学・観察メモや収集した資料をもとに、文章を書き、発表すること。
- 日記や行事作文等、書く活動を日常的に取り入れること。

## 平成24年度 県小教研学習指導改善調査【結果分析】第5学年国語

### 1 調査結果の分析

#### (1) 資料選択について(①～⑤)

##### ア 本文と資料を関連付けて読み取る力・・・(①②)

①②は、複数の資料(2種類の非連続型テキストと話し合いの内容)を関連付けて情報を正確に読み取る問題である。① 75.8 %② 73.7 %とどちらも高い正答率であった。しかし、以下のような課題も見られた。

①では、空欄アを含む山本さんの発言にある「好きな音楽の合奏」「大好きなピアノの演奏」に着目できない、あるいはそれを学級新聞にある「自分の特ぎ」と関連付けることができないための誤答が多かったようだ。また、空欄アに続く「という意見」を、資料にある「学級目標が達成できたという意見」という記述と安易に関連付けたための誤答もあった。さらに「言葉を書きましょう」という設問であったため、文の形式ではなく言葉を記入した誤答もあった。②では、広川さん、司会者の発言にある「協力する」「チャレンジ」という言葉に着目できず、「学級目標」という言葉から安易に判断して1つの欄に2つの学級目標をまとめて書いたり、問題文1ページを詳細に読まなかったために学級目標を見つけられなかったりしたための誤答があった。

##### イ 本文を読み取る力・・・(③④)

正答率は、③ 71.7 %④ 75.5 %で高い数値であった。話し合いの参加者が意見を述べる前に「わたしはA案に賛成です。」などと自分の立場をはっきりさせているため、誰の発言にA案、B案の問題点が存するかがわかりやすく、司会者がA案・B案の話し合いを分けて進めているため、長文を読むことが苦手な児童でも、誰の発言がどちらの立場であるかを読み取ることは容易であったと考えられる。誤答として、事実のみの記述(「せりふが言えない」)で問題点が挙げられていないもの、話し合いの内容からでなく自分の考えで問題点をとらえてしまっているものがあった。

#### (2) 記述問題について(⑤～⑩)

⑤～⑩は、読み取ったことを基にして、自分の考えを論理的に記述する問題である。指定された文字数に達しないと⑤が誤答、⑥以下がすべて無答となる。

##### ア 制限時間内に指定された文字数で記述する力・・・(⑤)

⑤では、指定された文字数以上で文章を書こうとする学習意欲を問うている。正答率は81.0 %。昨年度4学年時の同項目が85.8 %、昨年度の5学年が84.7 %であったことから考えると、若干低下傾向を示しているが、依然高い水準を保っている。書く内容が明確であれば、指定された文字数で記述することはさほど難しくないのである。今後は、書く内容を収集、選択する事前の指導の充実とともに、書くことに抵抗感がある字数の足りない児童(誤答17.1 %)、全く書けなかった児童(無答1.9 %)への指導の方策を改善していかねばならない。

##### イ 段落を構成する力・・・(⑥)

正答率は47.2 %で、全設問中最も低い結果となった。誤答で多かったものは、段落のはじめで1字下げをしていないものである。また、改行をせず書き連ねてしまう児童もいた。段落指導の基礎的・基本的な事項であることから確実な指導が望まれる。また、「始め、中、終わり」の三部構成ができていない、三部構成にはなっているが、「中」の段落を複数の形式段落で構成できていないものも多かった。全ての条件を満たすことが難しく、正答率が伸びなかったと考えられる。文章を記述する上で基本となる「始め、中、終わり」の三部構成とともに、意味段落と形式段落の違いなどについても指導を充実していく必要がある。

#### ウ 自分の立場を明確にして記述する力・・・(⑦)

77.8%と高い正答率であった。自分の立場を明確にして記述する力を身につけている児童が多いと言える。A案とB案の二者択一であること、どちらを選んでも誤答ではないことなどもあり、第一段落に自分の立場を明確に記述することができたようだ。

#### エ 理由を明確にして記述する力・・・(⑧)

正答率は、59.0%であった。誤答では、理由が一つしか書けない、記述内容が理由となり得ていない(賛成する案についての自分の考えを記述)、一段落に書かれた自分の立場と整合する理由になっていないものなどがあつた。取り出した情報を整理しそれを使って理由付けをする思考力、自分の主張にあつた情報を収集し、分類・整理する情報活用能力、それを論理的に記述する表現力育成のためのさらなる指導が必要である。

#### オ 賛成した案の問題点をとらえ、解決方法について自分の考えを記述する力・・・(⑨)

正答率は50.2%で低い数値であつた。また、無答率が30.8%と高かつた。自分と異なる立場の問題点を指摘することはできても、自分が賛成する立場の問題点や解決方法を見つけることは、児童には難しい面が多い。正答率が低く、無答が多い要因であると考えられる。誤答では、問題点を見付けられない、問題点は見付けられたが解決策が見付けられないというものが多かつた。また、問題点、解決策は考えられても整合性にかける、出題意図を十分に理解できず、自分と異なる立場の問題点を考えてしまったものもあつた。物事を多角的にとらえ、メリット、デメリットの両面から考える機会を設定するとともに、自分の考えに自ら反駁することで説得力が増すことを実感できる取り上げ指導を工夫することも考えられる。

#### カ ねらいと整合させて自分の考えを記述する力・・・(⑩)

正答率は53.1%で低い数値であつた。また、無答率が28.5%と高かつた。学級目標と整合させて考えを述べる、論理的な思考力が求められる問題で、児童にとっては難易度が高かつた。誤答では、学級目標との整合性に欠ける記述が多く見られた。また、自分の立場を繰り返し表明しているもの、自分の経験を論じることに終始し、問題文に示される学級目標と関連のない記述になっているものもあつた。⑧以降の問題から見える共通の課題として、主張と根拠、論拠の整合をいかに図らせるかということがあつた。国語科のみならず、他教科等も含め指導を継続していく必要があるのではないかと。

## 2 今後、重点的に指導してほしい活動

### (1) 国語科の学習で

- 段落意識を明確にして、段落と全体との関連をとらえながら文章の要旨を把握すること。
- 資料から自分に必要な情報を収集し、分類・整理して、自分の考えを明確にすること。
- 意見文の基本的な構成や文末表現を模倣しながら、自分の考えを的確に記述すること。
- 書くことの抵抗を少なくするために、短作文を書く等日常的に書く機会を設定すること。
- 普段から原稿表紙の表記のきまりを意識し、原稿用紙(またはマス目のあるノート)を用いて書くこと。

### (2) 他教科や総合的な学習の時間で

- 図や表、写真などの非連続型テキストから、情報を取り出したり、分類・整理したりすること。
- 物事を多角的にとらえたり、自他の考えを比較して共通点や相違点に着目したりしながら、考えのよい点、改善が必要な点等を考えること。

## 平成24年度 県小教研学習指導改善調査【結果分析】第6学年国語

### 1 調査結果の分析

#### (1) 資料分析について (①～③)

##### ア 資料を基に、必要な情報を条件に合わせて選択し、構成する力・・・(①②③)

①の資料を読み取り、目的や意図に合わせて情報を活用する設問は、87.1%と高い正答率を示している。特に、与えられた状況に合わせて、資料から必要な情報を取り出すことはよくできているが、「注意点」では未記入が見られた。「必ずひとつは書き込みましょう」という設問の見落としが原因であると考えられる。

②の目的や意図に合わせて行動計画を立てる設問については、72.4%の正答率でありやや低めである。コース名と見学場所につながりがないという誤答が多い。これは、資料Bの「見学場所の特徴や良さ」という情報とコース名を関連づけて考える力の不足が原因である。また、「自由行動の条件」に合わせて解答していない誤答が見られた。情報を関連付けて考える力、条件に合わせて判断する力を身に付けていく必要がある。

③の目的や意図に合わせて自分の知識や経験を活用する設問については、94.7%と高い正答率である。「生活経験を基に注意すべきことを想起する」という推論の力が身に付いている。

#### (2) 記述問題について (④～⑦)

##### ア 時間内に指定された文字で記述する力・・・(④)

85.1%の高い正答率を示している。たくさん情報から必要なことを選んで説明したり、自分の考えを加えて書いたりする力が付いてきている。無答が2.0%と少なく、全く手をつけられなかった児童はほとんどいない。誤答の12.9%は、時間内に記述が終わらなかったためと考えられる。決められた時間内に決められた字数の文章を書く学習体験を積むことが必要である。

##### イ 段落を構成する力・・・(⑤)

正答率が60.1%であり、本調査の中で最も低い。誤答27.2%では、「始め」「中」「終わり」の大きな3つの段落ができていないものが多い。「始め」がなく、いきなり行く場所を羅列的に書いているもの、「終わり」にあたるまとめの文章がないものなどである。

「始め」「中」「終わり」の構成で、つながりの明確な文章を書くことと説得力のある主張ができること、一段落に一事項を書くことですっきりとした論理展開ができることなど、単に「書き方」を教えるだけでなく、そうする理由を理解させながらの段落構成の指導が求められる。

##### ウ 目的を明確にして記述する力・・・(⑥)

77.6%と比較的高い正答率を示している。「新1年生は～だろうと思うから」と推論したり、「新1年生にこうなってほしい」と自分の立場から考えたりする理由付けの仕方が身に付いてきている。誤答8.3%、無答が14.1%と無答が誤答を上回って

いる。理由を「始め」に書かず、「中」に書いているものが多く、与えられた条件をきちんと読んでいないことが一因となっている。また、誤答には、理由と見学場所とにつながりがなく妥当性に欠けるもの、「～だから」などの理由付けの形式になっていないため理由と受け取れない記述があった。主張と理由のつながり、「どうしてか」というと～だから」という理由の書き方といった基本的な内容を指導する必要がある。

### エ 根拠を生かして記述する力・・・(⑦)

69.0%とやや低めの正答率である。また、無答が18.8%で誤答の12.2%を上回っている。「知識や経験とはどういうものかが分からない」、「文章のなかにどのような知識や経験を組み込めばいいか判断ができない」という何をどう表現したらよいか分からなかったための無答が多いものと考えられる。また、誤答は、選択した場所とつながりのない知識や経験を記述してしまったものや、単に「楽しいと思います」のように知識や経験が具体的に書かれていないものがあった。自分の知識や経験を具体的に記述すると説得力があるということを指導する必要がある。

## 2 今後、重点的に指導してほしい活動

### (1) 国語科の学習で

#### 主体的な読み手、書き手となる学習活動を工夫すること

伝えたいという思いをもって読んだり書いたりする活動を行うことで、説得力のある文章の書き方を知りたいという主体的な学び手の姿が引き出される。そういった子どもの探究を大切にしながら、下記のような学習内容を重点的に指導したい。

#### ○複数の情報を関連づけて読むこと

取材メモや調べたことなどのたくさんの情報の中から自分に必要な情報を選んだり、違うタイプの情報同士を関連づけて読み取ったりして、そこから自分の考えをもつことができるような学習経験が必要である。

#### ○段落構成を意識して書くこと

段落の「役割」を意識させることが大切である。「始め」で主張を投げかけ、「中」で具体的に根拠をおりまぜながら説明し、「終わり」で「始め」に書いたことを強めるまとめをすると分かりやすい文章になることを理解させたい。また、書いている途中で論旨がずれないように論旨のつながりを見直す活動を工夫したい。

#### ○根拠・理由付けをしながら話したり書いたりすること

本やインターネットで調べた情報や自分の体験や知識といった事実を根拠としたり、それらの根拠から判断したことや自分の考えを理由付けとしたりすることで、説得力が増す文章になる。日頃の授業の中で、根拠・理由付けをして話したり書いたりする機会を多くとるようにしたい。

### (2) 他の教科や総合的な学習の時間で

○図、表、グラフ、写真、絵、楽譜、観察対象、実物といった非連続テキストから、どのようなことが分かるのかを判断し、自分の考えをもつことが大切である。

○国語科で学習した「新聞を書く」「レポートを書く」などの力を各教科の言語活動で活用することができるように指導計画相互の連携を図る。